



委員長の招待席

化学英語3…会話

● ジェンセン・レイダー

上田佑樹

社団法人 日本化学会 学術情報部

本会学術情報部において2年半にわたり、欧文誌、速報誌の英語を添削してきた経験から、3, 4号に続いて化学英語第3弾として会話について記す。

はじめに

前回、英語での化学研究論文の書き方や化学研究の口頭発表の方法に関して論述した。研究の国際化に伴い情報が急速に増加し、我々研究者はこれから、この競争的な環境で国際語である英語が理解できないと科学者として生き残るのは難しくなっていくだろう。今やどこの国の技術者においても英論文を読むということは日常生活になった。しかし世界の最先端の実験結果を調べるのは研究の一部であって、自分の発想、結果、大発見を広く伝えることが重要であろう。学者は第一に情報を受けて理解する、第二に発想や結果を伝える。しかしそれ以上に最も重要なことは、他の研究者とコミュニケーションをとることである。そのため、近代では外国語をうまく利用できる、というのはやはり必要であり、なかでも英語は不可欠な言語である。

現在、言語の教育や勉強のための教材が非常に多く存在している。日本では中・高そして大学で英語が教えられており、さらに英会話学校や独学のための教科書、通信教育、英語でのテレビやラジオ放送まである。それぞれの教材を活用すれば各々の能力を開発できるだろう。例えば、学校では英語理論、英文法が学べ、本や新聞、テキストは語彙を増やすのに役立ち、英語のテレビ、ラジオ放送を利用すれば聞き取りの訓練になる、そして英会話学校に通えば会話が上達する。それぞれにすべて、よい特徴をもっているが、この中の1つだけだと英語を習得するスピードはなかなか上がらないだろう。どれか1つの方法を中心に、他の方法を加えれば相乗効果が出る。理論的な知識・文法があれば助けになるが、それだけでは不十分であり、理論的な知識が不可欠なものとは思わない。本やテキストなどで語彙が増え、テレビなどで聞き取りが上達しても、会話における流暢さは得られない。実際に英語での会話を練習すれば

流暢にはなるが、語彙力がなければ自分の考えをしっかりと相手に伝えるのは難しい。しかし、それらを包括的に勉強していけば英語の能力は飛躍的に上がる。

言語は子供のときのように学ぶ

本会会員の皆さんは化学者なので科学的に考えた方が有利であろう。近年、脳化学研究は分子単位でも構造と機能関係でも非常に進んでいる。神経回路の形成と機能を認識すれば、どのように訓練したらよいか理解できるだろう。理論を勉強すれば確実に知識を記憶に残すことができる。その知識は有用だが、それだけでは不十分で、録音機と同じように言葉を合成することができずただ繰り返すことしかできない。しかし聴く、話す、書く、読むといったように実際に言葉を使えば神経回路が最も多く形成される。皆さんはよく理解されているだろうが、構造は機能である。様々な勉強方法を効率的に利用すれば神経回路をできるだけ広げることができる。

子供のときの方が大人になってからよりも早く言語習得する、と言われている。確かに8歳の子供と50歳の大人の脳は違うだろうが、それほど大きな問題ではないように思う。しかし、子供と大人では環境・習慣が大きく異なっている。子供は思いがけない刺激を受けたとき、積極的に新しい物事を吸収しようとするが、大人はそれまでの経験、習慣そして周りの環境が邪魔をして新しい経験を遮る傾向にある。子供の世界では知らない人ともよく話し、友達もすぐに作ることができるが、社会に出てからは、知り合いは多くいても友達を作る、というのはなかなか難しいように思われる。また子供は言葉使いなど気にしないが、年齢を重ねるにつれて普段の会話でも注意が必要になってくる。言語は子供のときのように学ぶ、というのが大事である。年齢は変えようもないが、考え方、環境に関しては改善していくことができるだろう。母国語の影響をできるだけ避け、自分で英語を勉強する環境を作り出すことが重要である。自分の環境を変化させることは

大変難しいことだが、これができればかなり英語習得の助けになるはずである。

会話は実際に使うこと

論文は完成した作品、発表は事前に準備した話であるが、会話は即興である。会話で使う語彙は少なく、人間の脳は相手の文法的な間違いを自動的に正すので、少しの間違いであれば相手は気づかない。もちろん単語の順序や前置詞、発音が標準的なものとかけ離れていれば、相手が理解できない恐れがあるが、それでも論文などの文書のような正式なもの比べるとかなり容易である。しかし会話が文書や発表よりも難しい場合もある。なぜなら会話がその場一瞬のものであり、考える間もなく瞬時に言葉を紡ぎ出さなければならないからである。実際、英語で会話をするとき、これから話そうとする内容が頭に日本語で浮かんでしまい、それを英語に訳すのに時間がかかり、十分な会話ができないことがよくある。会話は勉強してできることではない。書くこともそうだが会話では実際に使うことが何よりも大事である。

言語を習得するには

ではどのように英語を勉強していけばよいか。英文を読むだけでは会話は上達しないが理解できる語彙、表現が増えるという点で非常に役に立つ。研究者は仕事で英文書を多く読むので難しいことではないだろう。英文書を読む際に、役に立つ言葉や慣用句を手帳などに書き留めておくといい。化学論文では研究で使う言葉が多く、文章の構成は会話と多少異なるので、対話の多い小説や雑誌を読めばよい。小学生向けの小説などは特によいだろう。テレビや映画などでも細かいところは気にせず、大まかな内容が理解できるように見ればよい。

言語を習得するためには読む、聴くとい

う受け身の行為よりも書く、話すといった自発的な行為が不可欠である。先に述べたように、研究報告書は会話とは違うので、さらに日記を書く習慣をつけるのもよい。そして一番大事なことは何よりも話す練習である。練習相手としてはやはり英語を流暢に話す相手が望ましいが、何も実際の人物である必要はない。例えば野良猫や家の植物など、自分で会話の相手を作り出し、挨拶や会話を自分の頭の中で進行させていく。またDVDなどを使って勉強する場合、例えば海外ドラマなどの1話が20分~40分と短いものを選び、まず字幕なしで1話を通して見る。次に日本語の字幕を付け、自分の思っていた意味が正しいかを確認し、最後に字幕を英語に切り替え、聞き取れなかった単語、理解できなかった表現などを字幕で確認し、それをノートなどに書き留める。そしてそれらの書き留めた英単語、表現を使い、先ほど述べたように頭の中で会話を作る、など方法は様々ある。

英語の勉強は週に数時間を費やすなどして時間はどうしてもかかってしまうが、これらのような方法で工夫し、繰り返し勉強していけばきっと上達するはずである。決してテキスト、問題集などを黙々と解き進めることだけが勉強ではない。日常生活の中で、常々英語を意識しながら生活すれば学校の勉強などよりも実際に日常会話として役に立つ英語が習得できる。朝起きて出勤する際、近所の犬に英語で挨拶し、電車を待つ間自分の憧れる化学者(または俳優、ギタリスト等)と頭の中で会話する。そして電車の中では雑誌を読み、休憩時間には日記を書く。このように勉強する機会を探せば十分に練習できる。

皆さんには子供のように英語の勉強を頑張っていたいただきたい。見て、聞いて、そして真似をして上達していきましょう。



Rader Jensen
1996年米国 Centaur Pharmaceuticals 職員。
2003年米国 Texas A&M University 研究員。07年東北大学大学院理学研究科化学専攻博士課程修了。同年京都大学大学院工学部化学研究所博士研究員。07年から日本化学会学術情報部勤務。



うえだ・ゆうき
2008年福岡大学人文学部英語科卒業。